

現 況

1 調査・研究活動

(1) 「日本社会運動史料」の復刻にかかわる調査・研究

参加者 梅田俊英, 大野節子, 横関 至

研究の目的 当研究所の創立50周年を記念してはじめられた「日本社会運動史料」の復刻事業を円滑にすすめ、正確な解題を作成するために、機関紙誌や原資料の収集、機関紙誌発行の背景や執筆者の解明、運動の実状や新たな事実の発掘などをおこなうことを目的とする。

研究の期間 1969年～

成果の公開 1999年12月までに、206冊を法政大学出版局より刊行

(2) 現代労働問題研究会

参加者 早川征一郎, 相田利雄, 浅見和彦, 小越洋之助, 川島美保, 木下武男, 高橋祐吉, 手島繁一, 長谷川義和, 山本補将, 鷺谷徹など約20名

研究の目的 現代の労働問題・労使関係についての文献研究を主とし、あわせて現実の労働問題についての一定の分析研究を行うことを目的とする。

研究の期間 1977年～。ただし、現在は休会中で、2000年4月を目途に、新しい研究組織として再開すべく検討中。

成果の公開 『電機産業における労働組合』(1984年7月, 大月書店), 「日本における公務員賃金決定の特徴」(早川征一郎) 『大原社会問題研究所雑誌』333(1986年8月)号, 「87年春闘の特徴と総括」(早川征一郎) 同前344(1987年7月)号, 「日本における職能的労働組合の可能性」(木下武男), 「運輸・一般労働者組合の源流と成立(上)」(浅見和彦) 同前347(1987年10月)号, 「産業別個人加盟労組運動の経験」(長谷川義和), 「運輸・一般労働者組合の源流と成立(下)」(浅見和彦) 同前348(1987年11月)号

(3) QWLに関する研究会

参加者 嶺学, 稲上毅, 今井一孝, 佐藤博樹, 武沢信一, 田中勉, 萩原進など約20名

研究の目的 新技術導入における作業組織の改善, 産業におけるストレスの防止, 健康の維持確保などを含む労働における人間的価値, 欲求の実現の努力としての労働の人間化または労働生活の質的向上(quality of working life, QWL)をめぐる諸問題の研究を目的とする。

研究の期間 1983年～

成果の公開 “The Impact of Microelectronic Technology and the Related Policies in Japan”(Manabu Mine) 『研究資料月報』316(1985年3月)号, 「QWL概念の本質に関する考察」(中野千秋) 同前, 『労働の人間化』(1986年4月, 総合労働研究所), “Humanization of Work in Japan”(Manabu Mine) 『大原社会問題研究所雑誌』331(1986年6月)号, “Safety and Health in Japan”(Manabu Mine) 『大原社会問題研究所雑誌』348(1987年11月)号, 349(12月)号, 「社会・技術システム論による組織デザインの方法について」(近藤隆雄) 『大原社会問題研究所雑誌』354(1988年5月)号

(4) ヨーロッパ労働運動史研究会

参加者 佐伯哲朗, 小沢弘明, 木戸衛一, 相馬保夫, 土屋好古

研究の目的 ヨーロッパ諸国における労働運動の歴史に関する文献研究と各国の運動の実態及び運動にかかわる諸理論の研究を目的とする。

研究の期間 1988年～。ただし、現在は休会中。

成果の公開 小沢弘明・佐伯哲朗・相馬保夫・土屋好古『労働者文化と労働運動』木鐸社、1995年

(5) 戦後社会運動研究会

参 加 者 五十嵐仁、吉田健二

研究の目的 当研究所の創立70周年を記念しての「戦後日本社会労働運動資料」復刻事業を円滑に進行させ、正確な解題を作成するために、機関紙誌等の収集、運動の実状や背景など新たな事実の発掘のための調査・研究を目的とする。

研究の期間 1988年～

成果の公開 『民報 東京民報』『社会思潮』『社会主義』『政治経済通信』、以上20冊

(6) 経営労務研究会

参 加 者 相田利雄、早川征一郎、平井陽一、平澤克彦、長谷川義和

研究の目的 ホワイトカラーの実態と昇進構造についての研究を目的としている。

研究の期間 1990年6月～

(7) 加齢過程における福祉研究会

参 加 者 嶺学、大山博、町田隆男、萩原康子

研究の目的 高齢者の在宅ケア、高齢化社会における生活の質の向上についての研究を目的とする。

研究の期間 1995年～

(8) 福祉国家研究会

参 加 者 大山博、高藤昭ほか31名

研究の目的 福祉国家論および福祉国家といわれる実際についての理論的、実証的研究。

成果の公開 大山博・武川正吾・炭谷茂・平岡公一編『福祉国家への視座』（ミネルヴァ書房、1999年、大原社会問題研究所叢書）

(9) その他、外国人労働者問題研究会、余暇リゾート研究会は休会中。

2 公開シンポジウム

(1) 国際労働問題シンポジウム

第1回 ILOと技術協力 - 日本はどうかかわるのか（1987年10月31日）

第2回 職場における安全と健康 - ILOと日本（1988年9月28日）

第3回 外国人労働者問題とILO - ILO条約・勧告の示唆するもの（1989年9月26日）

第4回 女子労働者と夜間労働 - ILOと日本（1990年9月26日）

第5回 外国人労働者に関する国連条約をめぐって（1991年11月11日）

第6回 先進国における社会保障の将来 - ILOの示唆するもの（1992年10月1日）

第7回 パートタイム労働 - ILOにおける審議を中心に（1993年9月30日）

第8回 パートタイム労働に関するILO基準（1994年9月28日）

第9回 国際社会における今日の雇用問題 - ILO総会での討議に関連して（1995年9月27日）

第10回 今、なぜ家内労働か？ - ILOの家内労働条約・勧告をめぐって（1996年9月26日）

第11回 有料職業紹介条約(96号)の改正をめぐって - ILO条約における審議と示唆するもの（1997年9月25日）

第12回 中小企業における雇用の創出 - ILO勧告の示唆するもの（1998年9月25日）

(2) 公開シンポジウムほか

外国人労働者問題と労働組合（1989年11月29～30日） * 研究所創立70周年記念

日韓交流シンポジウム 1995年1月24～25日 於：法政大学

1995年8月28～29日 日本の産業と労使関係 於：韓国・仁荷大学校

1996年5月21日 韓国労使関係の現在 於：法政大学

1996年10月7日 日本の労使関係の特性 於：韓国・仁荷大学校

多摩シンポジウム・急速な高齢化 - 安心して住めるコミュニティを目指して（1996年1月27日）

労働の規制緩和と労働組合（1999年11月2日） * 研究所創立80周年・法政大学合併50周年記念

3 人 事（1989年以降）

(1) 人事異動

所 長

1985年4月～94年3月 二村一夫

1994年4月～97年3月 嶺 学

1997年4月～ 早川征一郎

運営委員

1989年6月 相良匡俊 就任

1990年3月 高橋彦博 退任

1990年3月 相良匡俊 退任

1990年3月 森 廣正 退任

1990年4月 増田寿男 就任

1990年4月 相田利雄 就任

1990年4月 伊集院立 就任

1991年3月 佐藤博樹 退任

1992年4月 森 廣正 就任

1993年3月 鈴木徹三 退任

1993年4月 萩原 進 就任

1994年3月 増田寿男 退任

1994年4月 村串仁三郎 就任

1995年3月 村串仁三郎 退任

1995年4月 小林謙一 就任

1995年4月 金子征史 就任

1996年3月 萩原 進 退任

1996年3月 相田利雄 退任

1996年3月 森 廣正 退任

1996年3月 小林謙一 退任

1996年4月 五味健吉 就任

1996年4月 公文 溥 就任

1996年4月 小椋正立 就任

1996年4月 松崎 義 就任

1998年3月 小椋正立 退任

1998年3月 松崎 義 退任

1998年3月 伊集院立 退任

1998年4月 寿福眞美 就任

1998年4月 長原 豊 就任

1998年4月 萩原 進 就任

1999年3月 五味健吉 退任

1999年4月	森 廣正	就任	
1999年4月	相田利雄	就任	
名誉研究員			
1993年3月	鈴木徹三		
1999年3月	二村一夫		
1999年3月	嶺 学		
専任研究員			
1998年4月	岩崎晋也	採用	
1999年3月	二村一夫	退職	
1999年4月	鈴木 玲	採用	
兼任研究員			
1991年3月	平井陽一	退任	
1991年9月	高野和基	就任	
1992年3月	浅見和彦	退任	
1992年4月	福田富夫	就任	
1995年4月	根岸秀世	就任	
1997年3月	大野節子	退任	
1997年3月	根岸秀世	退任	
1997年3月	高野和基	退任	
1997年4月	小関隆志	就任	
1997年4月	武内砂由美	就任	
1997年4月	松尾純子	就任	
1997年4月	水野谷武志	就任	
1998年3月	水野谷武志	退任	
1998年6月	福田富夫	退任	
1999年4月	野村一夫	就任	
専任職員			
1989年3月	庶務係主任	立花雄一	退職
1989年5月	庶務係主任	河原由治	転入
1991年6月	庶務係	豊田淳子	転入
1992年3月	図書資料係主任	是枝 洋	退職
1992年3月	図書資料係	北村英美子	退職
1992年4月	図書係	御子柴啓子	転入
1992年4月	図書係	奈良明弘	転入
1993年4月	課長補佐	河原由治	転出
1993年4月	課長補佐	横田礼子	転入
1994年4月	図書係	小島英恵	転出
1994年4月	図書係	山本なほ子	転入
1995年3月	資料庶務係	谷口朗子	退職
1995年4月	資料庶務係	上田洋子	転入
1996年4月	図書係	山本なほ子	転出
1996年4月	資料庶務係	福岡谷五郎	転入
1997年3月	資料庶務係	福岡谷五郎	退職
1997年4月	資料庶務係	遊座圭子	転入
1998年3月	課長	横田礼子	退職
1998年4月	図書係	奈良明弘	転出
1998年4月	図書係	神屋敷昭人	採用
1999年3月	資料庶務係	御子柴啓子	退職

(2) 研究員の海外出張

五十嵐 仁	1989年7～9月	中国上海外語学院との交換研究員として出張
二村 一夫	1989年9月	労働運動史国際会議、国際鉱山史研究会議、労働史研究機関国際協会総会、シェフィールド大学日本研究所創立25周年記念会議に出席のためヨーロッパ出張
二村 一夫	1990年5月	シンポジウム労働運動の生成 - 1870～1914 (アムステルダム社会史国際研究所主催) に出席
二村 一夫	1990年8～9月	労働史研究機関国際協会総会 (ヘルシンキ) に出席
早川征一郎	1991年9～10月	ヨーロッパ交通事情調査
二村 一夫	1991年12月	韓国高麗大学主催のシンポジウムに出席
二村 一夫	1993年7月	オーストラリア・ウーロンゴン大学と同国連邦労使関係省主催の国際シンポジウム「日豪における労使関係の過去現在未来」に出席、報告。
二村 一夫	1994年8月	アメリカ・カリフォルニア大学パークレー校訪問
嶺学ほか13名	1995年8～9月	日韓労使関係共同研究で韓国・仁荷大学校でシンポジウム。その後ソウル等で調査
嶺学ほか9名	1996年10月	日韓労使関係共同研究で仁荷大学校でシンポジウム。その後調査
嶺学ほか3名	1997年2月	ソウル周辺で労組、企業関係機関訪問
鈴木玲ほか4名	1999年9月	韓国自動車産業調査で現代自動車、金属連盟等の聞き取り調査
鈴木 玲	1999年10月	北米労働史学会大会出席

(3) 客員研究員の受け入れ

栗田健 (明治大学)	1980年6月～
Bettina Post=Kobayashi (ドイツ日本研究所)	1988年4月～95年3月
Michael Weiner (イギリス・シェフィールド大学)	1989年4月～91年3月
洪仁淑 (韓国・梨花女子大学)	1989年4月～91年3月
鈴木宏昌 (早稲田大学)	1990年4月～
Andrew Gordon (アメリカ・デューク大学)	1990年9月～93年3月
高橋祐吉 (専修大学)	1990年4月～91年3月
犬丸義一 (長崎総合科学大学)	1990年9月～91年3月
Ute Schmidt (西ドイツ・ボン大学)	1990年9月～93年3月
ダグラス・デューラム (アメリカ・コロンビア大学)	1991年5月～7月
光岡博美 (駒沢大学)	1992年4月～93年3月
Divid Lorentz (アメリカ・ウィスコンシン大学)	1992年12月～95年3月
王少鋒 (中国・包頭日報記者)	1993年3月～97年3月
Elson E.Boles (ニューヨーク州立ビンガムトン大学)	1993年12月～95年11月
Emmanuel E. Ezeigbo (フィリピン・サントトーマス大学)	1994年2月～95年5月
Christine Lévi (フランス・第三ボルドー大学)	1995年3月～5月
Kathrin Köster	1995年4月～96年3月
芹沢寿良 (高知短大)	1995年4月～96年3月
Elyssa Faison (カリフォルニア大学ロサンゼルス校)	1996年9月～98年3月
Adrians Van der Wert (ライデン大学日本学研究センター)	1997年5月～98年3月
金泰永 (上智大学)	1997年4月～98年2月
趙成烈 (韓国・成均館大学校社会科学研究所)	1997年10月～99年3月
牟智煥 (韓国・中央大学)	1998年4月～
François Simard (カナダ・モントルー大学)	1998年9月～

(4) 研究所関係者の死去

1989年4月27日 岡本 秀昭 (元運営委員)

1997年4月25日 宇佐美誠次郎(元所長)
 1998年8月3日 舟橋 尚道(元所長)
 1998年8月23日 上杉 捨彦(元所員)
 1999年8月21日 五味 健吉(元運営委員)

4 スタッフ(1999年12月1日現在)

所 長	早川征一郎						
名誉研究員	鈴木徹三	二村一夫	嶺 学				
専任研究員	五十嵐仁	岩崎晋也	鈴木 玲	早川征一郎			
兼任研究員	相田利雄	金子征史	公文 溥	壽福眞美	長原 豊	萩原 進	森 廣正
兼任研究員	梅田俊英	小関隆志	佐伯哲朗	武内砂由美	野村一夫	松尾純子	横関 至
	吉田健二						
嘱託研究員	秋田成就	秋元 樹	浅野富美枝	浅見和彦	東 喜望	阿部正昭	荒川章二
	飯田泰三	石坂悦男	石谷 行	伊集院立	伊藤周平	稲上 毅	内山哲朗
	太田喜行	大谷禎之介	大野節子	大山 博	小椋正立	金子和夫	亀田利光
	川口智彦	上林千恵子	木下武男	金 元重	金 鎔基	櫛田 豊	小林謙一
	桜井絹江	佐藤博樹	佐藤健二	篠田 徹	諏訪康雄	芹沢寿良	相馬保夫
	祖父江利衛	高野和基	高橋紘士	高橋彦博	高橋祐吉	高藤 昭	田中義久
	鄭 章淵	手島繁一	中西 洋	長峰登記夫	中村圭介	根岸秀世	野田陽子
	長谷川義和	兵頭淳史	平井陽一	平澤克彦	平塚真樹	広田 明	船橋晴俊
	町田隆男	松尾章一	松尾 洋	松崎 義	丸谷 肇	三宅明正	村串仁三郎
	森 隆男	安江孝司	山口道弘	山本補将	横田伸子	吉村眞子	渡辺悦次
客員研究員	鈴木宏昌	栗田 健	牟 智煥	フランソワ・シマー			
専任職員	新井康廣	若杉隆志	上田洋子	遊座圭子	豊田淳子	神屋敷昭人	
臨時職員	今田町子	岩井睦子	小野磨里	小出啓子	坂本ひろ子	定森孝子	高橋芳江
	原田洋子	古谷郁子	山田美代子				

5 施設・設備

研究所総面積 2,200m²(うち書庫面積 1,400m²)

(1) 研究施設・設備

研究室：4 客員研究室：1 共同研究室：2 会議室：1 機器・作業室：1

パソコン：27台(閲覧用含む)

(OS:Win3.1:7台, Win95:3台, Win98:13台, WinNT:3台, Mac:1台)

コンピュータ端末(FMV-6400CL3C)：1台

プリンター：5台(閲覧用含む)

コピー機：2台(閲覧用含む)

ワープロ：2台

ファクシミリ：1台

スキャナ：2台

通信用モデム：2台

(2) 閲覧関係設備

閲覧室：1(20席,他に書庫内に10席)

特別閲覧室：1

書架：1,784連(11,216メートル)

新聞用書架 174連(1,701メートル)

最大収容量43万冊